

2019年度版 黒留袖ヘア&メイク&着付 要項

(1) 課題の内容

- 黒留袖の着付(六通袋帯使用)、及びセット・メイクを行う。
- 帯結びは二重太鼓とする。
- 黒留袖にふさわしい着付・セット・メイクをすること。

(2) 競技の方法

- セット・メイクの競技、ボディ補正、長襦袢着付までの競技、留袖着付・帯結びの競技に分けて行う。
- 審査はヘア&メイク&着付のトータルで採点される。
- モデルは人体とし、プロ・アマは問わない。
- セットの選手・メイクの選手・着付の選手の3人までの参加も可
(競技中の二人以上の同時施術不可)
(ヘア・メイク時は一人ずつしか競技スペースに入れない)
(着付室には着付の選手のみしか入れない)
- 選手の服装は上衣は白のブラウス、下は黒のパンツ(素材は問わない)シンプルで清潔な服装であること。
(肌の露出の多いものや、透けるもの、ヒラヒラするものは禁止する。帽子、スカーフ、ショール、アクセサリも禁止とする。)

(3) 競技時間

競技会場でメイク、セットの作業を50分、控室での補正・長襦袢着付までの作業を20分、競技会場での留袖着付及び帯結び作業、草履をはかせてポーズ付けまでの20分の合計90分。

メイク・セット開始時には、立ったまま「お願い致します」、着付時には、衣装敷の左後ろに正座したまま「お願い致します」と挨拶してから、競技に入る。

(4) 競技用具の準備 (選手が準備するもの)

- ① 黒留袖
- ② 袋帯(六通)
- ③ 草履
- ④ 長襦袢
- ⑤ 帯締め、帯あげ
- ⑥ ヘア用具一式
- ⑦ 化粧品一式
- ⑧ 衣装敷き(120cm x 180cm以内)
- ⑨ 衣装箱 (通常の衣装箱及びそれに準ずる箱を必ず持参し、大きさは縦44cm×横64cm×高さ25cm以内とする)
※プラスチックの衣装ケースや手さげ型の衣装ケースは除く
- ⑩ 小物付属品
足袋・肌襦袢、裾よけ (もしくはワンピース型の肌襦袢) ・腰紐 (5本～6本) ・帯枕・仮ひも (変り結び用) ・ボディ補正用具・帯板1枚 (ゴム付きは不可) ・クリップ類・伊達巻き2本 (長襦袢及び着物用)
- ⑪ 扇子 (金銀) 着物と帯の間に挟む
- ⑫ ガウン (競技会場でメイク・セットをする時に必ず着用する。色は白またはベージュ系に限る・ガウンの下は肌襦袢・足袋は着用のこと。)

- ⑬ ガウンの上にはクロスやケープはせず、必ず前、後ろに白のタオルをかける。(バスローブは禁止)
- ⑭ 椅子に座った時に膝が見える長さのガウンの方は、ひざ掛けを用意してくる(ひざ掛けは白で無地に限る)

(5) 着付け競技に関する注意事項

- ① 衿とじは、事前にやってくること。
- ② ものさし、メジャーの使用は認めない
- ③ 助手の使用は一切認めない。
- ④ クリップを留めるための、ポーチや腰用のエプロンの使用は認めるが、タイム前にそれらにクリップを留めることは認めない。(スタート後はOK)
- ⑤ ブラジャーの使用は認めない。和装用のブラジャーは使用可。(補正付は禁止)
- ⑥ 胸をつぶすための補正やガーゼは使用して良い。
- ⑦ 極端に完成されたボディ補正道具の使用は認めない。
- ⑧ 補正を止めるための、テープや包帯止めは使用可。
- ⑨ ボディ補正のパットやタオルはとじ付けてあってはいけない。
- ⑩ ひも付きのおしりパットも不可。
- ⑪ 帯や着物などに糸印をつけておくことは認めない。
- ⑫ モデルが、ひも、伊達巻、帯などを結ぶことは認めない。(ただし、ひも、帯あげなどを、腕にかけたり、手に持つことは差し支えない。)
- ⑬ モデルが、袖、衿元、裾などを修正すること、衿合わせを押さえることは認めない。(但し、たもとを持ち上げることは差し支えない)
- ⑭ 帯に形付けをしたり、帯結びの課程につながる過度のたたみ方は認めない。
- ⑮ 袖の板紙使用は、撮影時は良いが、競技の際の使用は認めない。
- ⑯ 帯飾りは禁止。
- ⑰ 帯締めは中心で結ぶこと。
- ⑱ 競技終了後、選手はモデルに一切触れてはならない。
- ⑲ 草履を履いて審査を行い、審査中のモデルは、両手を軽く広げ、おはしよりが隠れないポーズをとる。(草履を履かせて、ポーズ付けまでをタイムとする)

(6) 衣裳類の禁止事項

- 1：黒留袖
 - ①身幅にアールをつけて胴部を絞った仕立ては認めない。
 - ②おはしより紙は使用禁止とする。
- 2：長襦袢
 - ①衿は自由とするが、半衿は必ず縫い付ける。
 - ②後衿の力布は使ってはいけない。
 - ③特殊加工をほどこした衿や刺繍の入った衿は認めない。
- 3：帯
 - ①ひだの折り癖がつけられているものは認めない。
- 4：小物
 - ①コーリンベルトの使用は認めない。
 - ②帯飾りは禁止とする。

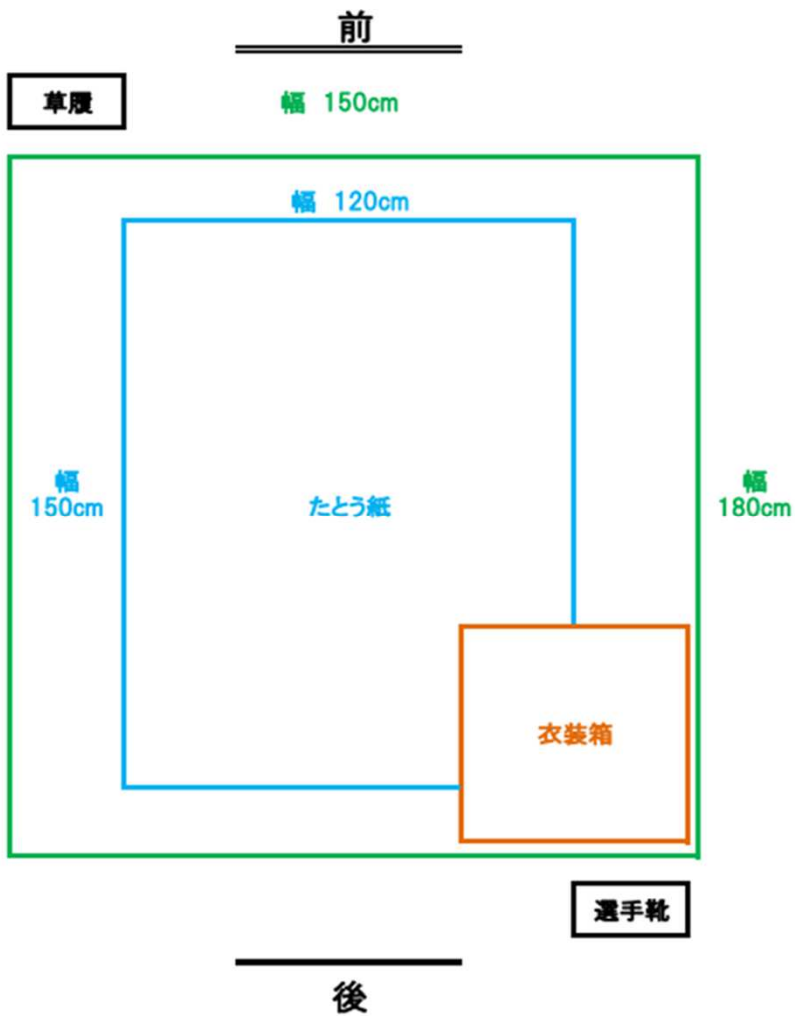
(7) ヘア・メイクに関する禁止事項

- ① モデルがセットのブラシ・ピンなどを選手に渡すこと、メイクのブラシ・筆などを選手に渡すことは禁止とする。

- ② モデル自身による化粧施術は、競技中はもとより、控室でも禁止する。
- ③ アイテープ及び、つけまつ毛を事前につけてくること、競技中にモデルがつけることを禁止する。
- ④ まつ毛エクステは禁止とする。
- ⑤ ヘアピース・髪飾りの使用は良い。ただし、ヘアピースの個数は1個とし、頭部の1/3以上を覆ってはならない。
- ⑥ まげや、おだんご、編み込みなど、あらかじめ形を作ってくることを禁止する。
- ⑦ 形の作られたすき毛、かつらやヘアピースの使用は認めない。

(8) その他の注意事項

- ① 競技中に選手同士またはモデル、観客と会話等をしてはならない。またアドバイスも受けてはならない。
- ② 競技中道具の貸し借りをしてはならない。
- ③ 小物や道具に名前やイニシャルなどを表記しないこと(ひもやクリップ、箱に名前を書かない)
- ④ 競技中、他の選手に迷惑をかけるような言動、及び監視員の指示に従わない等の行為は禁止とする。
- ⑤ 競技中に2人以上選手が、モデルに施術または触れることは禁止とする。
- ⑥ 携帯電話、スマートフォン、タブレットの競技会場への持込みは禁止とする。控室競技中も持ち物から出すことも禁止とする。
- ⑦ タイムを計るためのタイマー、時計は音の出ない物に限る。
- ⑧ 競技中に選手が時計、ブレスレット、指輪を身につけてはいけない。
- ⑨ 控室にはモデル及び出場者本人以外の立入りを禁止する。
- ⑩ 補正及びメイクに使うタオルも白に限る。
- ⑪ 控室、競技会場での電源は使用出来ない。コンセント不要の電気器具については使用を認める。
(コードレスアイロン、充電式のコテなどはOK)
- ⑫ アミカラー等は事前に巻いて控室に入場し、競技開始までに外しておく。
- ⑬ メイクは下地クリームもしくはファンデーションから開始する。化粧水・乳液は競技前につけておいてOKとする。
- ⑭ 競技用具は、大会当日の朝、競技が始まる前に、監視委員が厳重に点検を行う。
- ⑮ 忘れものの申告は監視委員を通すこと。



※競技スペース(150cm×180cm)
※たとう紙(120cm×150cm以内)

※衣装箱は競技スペースの中であれば、
たとう紙からはみ出しても良い。